

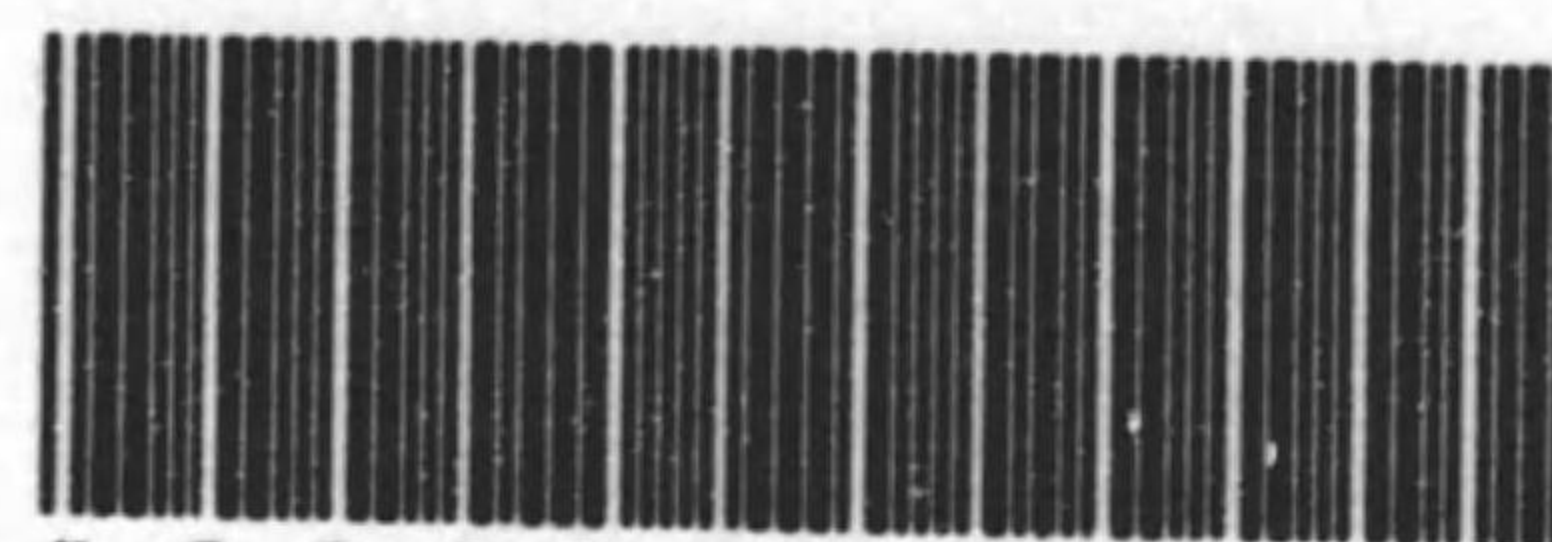
特249

204

和  
二  
年  
十  
月

國語漢文科に関する問題及回答

東京府國語漢文科教員會



\* 0043754000 \*

0043754-000

特249-204

國語漢文科に関する問題及回答

東京府國語漢文科教員會

昭和2

AHE

特249  
204

寄贈本

一、國語漢文科(對内對外とも)に關する一般問題

一、教科書に關するもの

讀本教材即ち國漢教科書に誤謬多しと聞く、教材内容にも發表形式(文章法文法)にも不都合多しと云ふ。これを改めんこと如何。

教科書點檢(國定のものも)内容檢察、文法文章法等の檢査。

環境指摘。

右調査研究は如何。(京北中學、林竹次郎)

二、副讀本及參考書に關するもの

副讀本を使用するとすれば其扱方如何。(京北中學、林竹次郎)

生徒の課外讀物の指導方法につき御意見承りたし。(千代田高女、小林ふく)

國漢科に直接間接關係ある課外讀物(文藝書雜誌なども)の指導如何。



生徒の参考書に對する取扱如何。（集鴨中、商、鹽井教）

三、作文に關するもの

國語講讀科受持に作文科擔任は當然のやうになつて居るが現時の受持ではそれでは負擔が重すぎる。それも一組（五十人）を限度とするならよからうが二組三組以上といふやうな有様では思ふやうになるまい。これは先年來叫ばれた問題だが作文力向上問題と連れて解決するやう良案を得たい。（府立第四高女、伊藤武一）

作文添削に關する方針を一定する必要なきか。（集鴨中、商、鹽井教）

作文を最も有効にする爲めには如何に指導すべきや。（第三高女、矢崎ふさを）

作文は實技の科目也、生徒に書かすことを本體とすべし、議論にわたることなく、

只、誤字誤法の注意に留むべし。但し、添削料は之を補給すべし。（京北中、林竹次郎）

書翰文の教授は一般に輕視せらるゝ傾ありと信ず如何。（集鴨中、商、鹽井教）

國語作文科中通信文に關する研究題目

一、通信文即ち書翰文の成績を良好ならしむる方法。

中等學校に入學するものは初等教育に於て書翰文の内容記述に就ては大體學習するを以て中等學校に於ては之を助長するに整理的事項を加ふるを要す。

整理的事項

（一）書翰文は人前に進むもの故先づ第一に禮式に適する様形態を整へしむるを要す。

（イ）卷紙に認むる場合其書き方卷き方方式。

（ロ）用箋に認むる場合其書き方折り方方式。

（ハ）卷紙は多く私用に用箋は公式用とすべき公私の區別。

（ニ）封筒の書き方。

（甲）私用通信に用ふべき封筒の書き方。

(乙) 公用通信に用ふべき封筒の書き方。

(ホ) 宛名に附する敬稱及脇付は私用と公式用と區別すべきこと、但し書翰内部の宛名と封筒の宛名とに就て相違あるべきこと。

(二) 書翰文の内容は用件の明確なる様記述せしむるを要す。

(イ) 前文の範圍。

(ロ) 本文の範圍。

(ハ) 末文の範圍。

(ニ) 右各段階に屬する亂すべからざる順序。

(ホ) 右各段階及各節を接續するに必要な常套語を脱漏せざることを。

(東京主計學校、小向勇藏)

國漢科教員の受持時數の標準を決定して當局の考慮を求むること。

(府立六中、木村武一郎)

他學科教員と同等の時間數を強ふるならば作文科(自宅にて見る故)特別手當を求むること。(府立六中、木村武一郎)

#### 四、文法に關するもの

##### 一、現代女子中等教育に於ける文法科教材の範圍

在來の文法教科書の中にある事項には随分煩雜で、然も現代文を読み且つ綴る上に可なり縁の遠いと思はれるものがあるから、それを整理して文法の効果を増大すると共に、無用の徒勞を省く餘地はないか。

##### 二、語法上の誤謬及假名遣ひの誤謬を如何なる標準で訂正するか

實際社會の新聞雜誌、又は斯道の大家の文に於てもそれ〴〵違つた見地を以て書かれて、全體としては、何等の律すべきものなく、渾沌たる状態になつて居る、それをどの邊まで整理して教授すべきか。せめて中等教育に於て之を調査して全國的にその標準を申合せては如何。

三、文法教授は口語文を主とすべきか、或は文語文を主とすべきか。

四、文法教授はどの學年に於て行ふのが、最も有効で且便宜であるか、從來は三、

四學年に行はれて居たが、之では不便を感ずる事がないか。(日本女大附屬高女)

文語文法は古文解釋を目的とする故に上級(三、四年)に課し且徹底的に教授するこ

とは如何。(府立第三高女、長瀬松代、阿佐美千代の)

文語法の文法を概して用ふる現時に、作文及び讀本材料ともに口語法多し。然る時

口語法は如何なる場合に於いて生徒に教授すべきか。(京北、波多野謙太郎)

文法教授は何學年頃より始むるが適當なるか。(府立第三高女、長瀬松代、阿佐美千代の)

文法は初年級に口語法を文章篇より品詞の分類に及ぶやうに教授し、上級に文語法を課した方がいゝと思ひます。文語法と口語法とを同時に對照しながら教授するのはいかにも合理的なやうですが、實際に於ては學習者の頭腦を混亂させて却つて不利だと思ひますが如何でせう。(千代田高女、小林ふく)

作文に於ては如何の程度まで假名遣と發音表記とを適用許容せしむべきか。

(府立第三高女、時下米太郎)

#### 五、假名遣及送假名に關するもの

文部省國語調査會できめた假名遣は既にある國語雜誌などでは盛んにつかつて居りますが、これは大いにわれ／＼の教授に影響を及ぼしますが交渉の必要はありませんか。(麻布中、森六藏)

歴史的假字遣を教ふる機會。(京北、波多野謙太郎)

國語科の書取に於て漢語漢字を主とし國語(假名遣、音便等)を輕視せらるゝ傾なきか。(東鴨中、商、藤井敦)

假名遣問題を研究したし。(府立六中、木村武一郎)

平假名を少く使用し、片假名を多く使用せしむること如何。(京北中、林竹太郎)

送假字法の所依、三とほりあるうちのどれによるか。(京北中、波多野謙太郎)

## 六、習字科に關するもの

(京北中、林竹次郎)

習字科と讀方科及作文科との連絡は如何にして取りあふか。

## 七、漢文に關するもの

短句短文を用ゐて漢文の構成を知らしむること、五年にても短文のわからぬものあり。(京北中、林竹次郎)

女學校用教科書には漢文を少し入れてある方便利なり。(上級用に)

(府立第四高女、伊藤武一)

國語科の一部に漢文を高等女學校の教科中に加ふることを其の筋に建議する件

一、理由 是明白で別に説明を要しません。

一、配當 是之を第一學年よりするかまた第三學年頃よりするか御協議の上で

決したいと思ひます。

時間數も同様です。こちらは受持教員に關係することですから。(精華高女、宇田四郎)

## 八、國語漢文試験に關するもの

國語漢文は動もすれば試験に重きをおきて平素の學習を輕視せらるゝ傾ありと信ず之に關する方針を一定する必要なきか。(集鳴中、商、豊井教)

## 九、國語科の時間數に關するもの

高女の時間を増すこと

高等女學校に於て、殊に修業年限四ヶ年の學校に於ては國語の時間を、習字一時間を加へて一週七時間位にしたいと思ひます。從來の經驗によれば、卒業後實社會に出て用ふべき文字の力を養ふだけでもなほ不足に思はれます。(千代田高女、小林ふく)

## 十、其他

熟語の濫造又は濫用を止めしむる工夫として官公署・小學校教員・新聞社等へ漢熟語不使用、國語使用の建議をなし、併せて講演宣傳しては如何。(京北中、林竹次郎)

國の古文明、古藝術を知らしむる事は國民教育上重要なり、いかに傳へつゝあるか

その教育方法如何、その時期如何、歐米諸洲にては如何。(京北中、林竹次郎)

國語問題、國字問題、思想善導に關し、國語擔任教師の社會的活動の必要に就いての件。(府立第六高女)

視察旅行に關する件

(イ) 休日祭日を利用して日歸り、宿泊等の場合。

(ロ) 休暇を利用する場合。

(ハ) 當局から補助金支出出願の件。(府立第六高女)

各方面の學者、實際家、藝術家(あらゆる方面をふくむ)を聘して、肩のこらない座談會開催の件。(府立第六高女)

觀劇、狂言、能狂言、舞踊、展覽會、研精會、其他國語料に交渉をもつものにつき見學上の便宜をはかられたきこと。(府立第六高女)

### 一、現代文に含める現代思想に關する材料の取扱

甲、文學の解釋だけにするか。乙、思想内容に及ぶとすれば如何。

丙、材料の適否。丁、其他。

現代文に含める現代思想に關する取扱

如何にわかり易い現代語で表現してある文であつても、文字、字句の解釋だけにとどめておくべきものではない。勿論思想的にはいつてゆくべきである、國語教授に對する見界の非常に進歩して來た今日に於て、字句の解釋だけを以て國語料の能事終れりなどと考へてゐる人は殆んどあるまい。それで現代文を授けるに當つてまづなさねばならぬ仕事は、

(イ) 其教材の内容たる思想感情等の研究理解。

(ロ) 其の理解を比較的完全に近からしめるためには原文の筋や内容の大體の説明

も必要であり、又其の教材の前後もしくは其の教材の内容に最も関係の深い部分を読んで聞かせるとか。

(ハ) 思索的批判的境地に生徒を導き作家の表現心理は那邊にあるかを問答したり説明したりしてその鑑賞をせしめる。

かう數へて見るとなすべき仕事は澤山ある、それに時の洗練を経ることの浅い現代文にあつては、思想的にも感情的にも吾々のそれとびつたり來ないものにもぶつつかる事である。これ等を生徒と共に議論しあつたり、研究しあつたりすることも必要であらう、かうして多くの性格に接し多くの精神を知り、そこに自己を發見することが出来るだらうと思ふ、なほ時間がゆるすならば同一作家の他の作品や、他の作家の同一問題を取扱つたものを読んで聞かせるとかいふことも成る可く多くしたい仕事である。如何せん時間に不足を感じるが常であつていつもおもふ存分やる事が出來ない國語時間の削減などの聲を聞くことは遺憾千萬である。(實踐女學校)

思想内容にも及ぼすを可とす。(慶應普通、依田雄甫)

適當に内容に迄及ぶべきこと論なかるべし。(青山學院)

思想内容に及ぶにあらざれば國語科として用なきものなるべく、内容の説明に困難を感じるもの、誤解を挑發するおそれあるもの不適當なるべし。(高輪中、商)

(甲) 文字の解釋だけにてその内容明確に理解出來得るものは可なり。

(乙) 現代思想界に關係あるものはなるべく忠實に之を紹介してその真相を理解せしめんことを勉むべし。

(丙) 材料の適否によつて手心あるは當然なり。

(丁) 以上の爲めには現在の國語の時間數にては或は不足すべし。(府立一中受持) ヒントを與へる丈でよいと思ひます。尤も字句の解らぬのは説明すること勿論ですこれ等は大抵講話でせう。(麻布中、森六蔵)

現代文を文字の解釋だけに止めるやうな事は、國語に對する生徒の興味を殺ぎ、且



教授の目的を完全に達し得ないこととなると思ふ。現代文の教授に於て、之をその思想内容にまで及ぼすべきことは、至當のことと思はれるが、それも程度の考察が必要である。つまり其の文章の理解と鑑賞とに必要な範圍と生徒の能力、興味の程度とを越えて、過度に事實や理論の詮索に耽ることは、國語教授の意義をなさぬ、又限られた時間の利用上からも戒むべきであらう。(日本女大附屬高女)

現代文教授上語句解釋の上に思想内容に立入りて初めて明瞭に理解さるべきものと思ふが、併し問題は其の立入る程度如何にありと思ふ、これは實際教授に於て生徒の學力程度及材料の良否に關係あれば教授者に於て適宜取扱ふべきもので適當の材料ならば深入りして可なるべきものと思ふ。(府立第四高女、伊藤武一)

明治・大正・昭和の我が思想史(世界の思想史との交渉を極めて大づかみに示しなば更に可)の大系を教授するため、その時代を背景とする思想家・作家等の位置及びその作品の價值を簡明に説明せば如何。(府立第三高女、時下米太郎)

## 二、國語科に於ける古文材料の選擇標準及び其の分量

此れは文部省にて大抵極め居るにあらざるか。(慶應普通、依田雄甫)

只分量を現在より増すこと。(青山學院)

種類と時代とに於ては嚴格に制限を加ふるの要なきも、分量に於ては相當考慮を要すべし。(高輪中、商)

教科書の本文類似のものにして簡單なるものを課すれば足る。(高輪中、商)

國語讀本には古文の材料をもつと加へてもいゝでせう。和歌は上代まで溯つてもいとおもひますが如何。(千代田高女、小林ふく)

國語科の古文材料として各種國文學の精粹を味はしたい。五年には古文二分の一、四年には三分の一、三年には四分の一、二年には五分の一、一年に若干を採りたい。尙漢文學の翻譯文を女學校用教科書にほしい(古文といふを明治文學まで入れてのこ

とです) (府立第四高女、伊藤武二)

材料は思想、感情等の正しくうつくしく表現せられ内容の充實した深みあるものを選ぶ、地理的歴史的理科的等々凡て他學科を不完全に覗き見をしたやうな教材はさげたい、併し何々のといったやうな材料を取扱つたものであつても、内容形式の融合してあるものであつて渾然たる文學作品と見做し得るものはとる。

#### 古文の分量

第一學年 全部現代文(文語文をも含む)

第二學年 現代文八。古文二。 第三學年 現代文七。古文三。

第四學年 現代文六。古文四。 第五學年 五と五の割 (實踐女學校)

開成館女子國語讀本について調査する處によると、現代文と古文との割合は、

一、二學年では古文は一、二課のみ。

三學年では漸く増加して三——五になり。

四學年では八になり。

五學年では現代文と古文と殆ど相半する。

この位の配當で別に不都合がないやうである。古文の挿入は生徒をして大體國文學の特質を會得せしめ、國民精神の自覺を助ける爲には、代表的な著名な文學を一通り讀ましめて、その餘はなるべく生徒の興味に合致する現代文を材料とした方がよいと思ふ。(日本女大附屬高女)

(1) 選擇標準 日本精神を發揮せるものを主とすること。それに文學的趣味の加はれるもの。

(2) 分量 低學年より漸次その量を増すこと。(府立第一中受持)

### 三、生徒の作文力を向上する良案

作文は天才によること最も大なれども與へられたる時間に於てこれが力を養成せん

には多作せしむるより外に良案なかるべし。(府立第一中受持)  
 作文力の向上は多作ですから、これは教師に一文についていくらと特別手當を出す  
 ことが肝要と思ひます。(麻布中、森六蔵)

模範文の熟讀暗誦と作文教員の批正力を時間的に増加すること。(高輪中、商)

善き文章の例を示し又生徒の作文には批評を加へて之れを誘掖し生徒をして作文に  
 興味を有せしむること。(慶應普通、依田雄甫)

作文教授の方法については、擔任生徒數、課題數、受持時間數なども顧慮して考  
 究する必要があるませう。協議すべき問題の一つではありますまいか。(千代田高女、小林ふく)

特に作文教師の勢力に酬ゆる方法を立つること。(青山學院)

生徒作文力向上の一策としては作文専任教師を得るもよし、現在はむしろ負擔過重  
 の状態ではないか。作文力向上の理論的方向はすでに研究され盡して居るではないか。

忌憚なく云へばこの過重な負擔をのがれて専ら作文科に努力するには如何にすべきか  
 等の問題が考究されねばなるまい。(府立第四高女、伊藤武一)

(イ) 作文受持教師の時間數を輕減しもしくは作文事務の教師をおくとかして其の  
 指導に十分の力を注がしめることが第一の必要條件であらう。

(ロ) 發表を自由にさせること、自由選題ならば勿論であるが假令課題にしても生  
 徒の日常生活に即した題を選び其の發表意志に拘束を加へないこと。

(ハ) 國語教授者は、生徒が教科書によつて他人の思想感情の魅力ある表現力に釣  
 り込まれて自分も何か一つ書いてみようといふ興味を禁じ得ないやうに導くこ  
 と、即書きたいといふ心にならせる事が肝要である。それには國語と作文は同  
 一教師に受持させるが便利である。

(ニ) 生徒の個性をよく知ること、生徒にはいろいろの癖があつて自然にまかせて  
 おくといつても同一傾向の文ばかりを作りたがるから指導者は其の長所を助長せ

しめると同時に甚だしく偏しないやうに導くこと。  
 (ホ) 生徒の作品には部分的にもまた全體的にも丁寧親切に興味を起さしむるやうな評語をつけてやること。

(ヘ) 少しでもよい處は見逃さないやうに注意し其の傍に賞詞または圈點のやうな賞美の意味の符號をつけてやること。

(ト) 大人の思想を以てむやみに添削を加へぬこと。

(チ) 發表法の拙劣な箇所でも簡単な詞を附記してやつて自分から再考工夫訂正せ

しめるやうに導きなほ其の眞面目に訂正して來た時は十分熱心な心でこれを批評してやること。

(リ) 優れた作品は其の筆者によませるなり教師がよむなり揭示するなりして獎勵し他生も奮發努力するやう仕向けることなどは其の力を向上させる一助ともならうかと思はれる。

凡て實際問題に直面しなければ充實した發表は出來ないから生徒の實生活に遠くない事をさせておかなければ進歩も發達もしないとおもふ。子供をつかまへて、大人の用事が足せないといつてせめるのは酷である。子供には子供の世界がある、其の世界に於て活躍し得るものは大人となつても立派にきりぬけて行かれる筈である。

(實踐女學校)

(1) 作文科擔任教師を優遇すること。殊に時間上の餘裕を與ふるやう擔任時間を編成せられたきこと。

(2) 諸大家の代表作と稱せらるゝ書籍を生徒讀書室(又は教室)に備付けて、時々指導を與へて之に親ましむること。

(3) 和歌・俳句等の韻文の創作によりて語句の洗練を計らしめ、以て散文創作上に及ぼすこと。

(4) 漢字假名遣使用上の限度を規定して、記述上の責任感を持たしむること。發音

- (4) による無茶書きを止むべきこと。  
 (5) 課題に就ては十二分に注意して、生徒のその折々の思想、生活に親しきものとすべきこと。  
 (6) 処理法については教師の時間と努力を有効ならしむべき妙案を本會會議の上にて案出いたしたし。  
 (7) 要は生徒をして作文創作上の興味を起さしめ、自作の創作に對して親愛の念を持たしむる事にあり。推敲と保存とはその一法ならん。(府立第三高女、時下米太郎)

#### 四、漢文教授の缺陷(ありとすれば)其の救済法

成るべく國語の法則に適合するやう讀ましむること。(青山學院)  
 詩を多く取材されては如何。(高輪中、南)  
 漢文の教員としては和習を脱して、正確に詩文の作れること、六書(六義)に通せる

ことは必要缺くべからざる要件たり、之れに加ふるに英語の作文の出来ることも必要なり(折にふれて、漢文を英文に譯し英文を漢文に譯して漢文の英文よりも六かきものにあらざるを示し又副詞、形容詞等も比較して示す)かゝる教員が教授すれば何等の缺陷も無からん。

萬一教員中に此の資格を備へざる者ありとすれば其の校の主任者より指導しては如何。

述と述、麻と麻との區別を知らず。漏泄を「ロウエイ」、浚渫を「シユンテフ」と讀み、又入洛、孟浪、胡亂等の讀方を知らざる教員ありとすれば指導の必要は有るべし。(慶應普通、依田雄甫)

現存の教科書に對してはその編纂態度に不満足を感ずる、無暗に難解の章句や、興味うすいものなどは採らないで、古今の名文とか精神修養に資するものとかを採用してほしい。(實踐女學校)

- (1) 教材に精通すること、原文あらばそれに當ること。
- (2) 朗讀法、抑揚高低緩急を附けること。
- (3) 國文に對照すべきものはその兩者を比較して調査しておくこと。
- (4) 文法の知識を確實にして文章法及送假名等に誤謬なきこと。
- (5) 名文を暗誦せしむること。
- (6) 故事熟語等にて人口に膾炙せるものは特に注意を與へて記憶せしむること。
- (7) 思想に關せるものは正當の批判を與へて明瞭にしおくこと。
- (8) 常に高深なる人格を養ふことに資するやう努むること。正義剛健忍耐等の諸徳に資するもの多し。
- (9) 美辭麗句は暗誦應用せしむること。
- (10) 漢詩は風韻を味ひ吟詠に資せしむるやう努むること。
- (11) 常に讀書に親しみ學力の養成を怠るべからず。

- (12) 教授の態度は常に元氣を以て接し青年子弟の指導伴侶として任ずること。

(府立第一中受持)

既習の漢文の章句を純正な國文に翻譯することによつて漢文科に興味を持たしむること。例ば前後置詞・接續詞等についての語感を明確にし、語氣・文勢に親ましむる事また律詩・古詩等を書き下しの國文新體詩に譯するも亦一法ならん。

(府立第三高女、時下米太郎)

## 五、已習漢文を白文にて復習せしむるの可否

既習漢文を白文にて復習せしむるを可とす。

一、讀書能力を増進す。

二、理解力を一層確實にす。

既習漢文を白文にて復習せしむるときは訓點にたよらざるが故に著しく思考を働か

して讀まざるべからず故に眞に其の意味を理解するを以て理解力を一層確實にするものなり、且つ白文にて復習する習慣を養ふ時は讀書力著しく増進するものなり。

(市立第二中學擔任)

- (1) 漢文教授上白文練習は必要なり。
  - (2) 初年級より課するを可とす。
  - (3) 構成の複雑なるものは之を省く。
  - (4) 著名の文章は構成の如何に拘らず特に之を課することあるべし。(府立第一中受持)
- 既修漢文を白文にて復習せしむることは必要なるべし。(高輪中、商)
- 可。(青山學院)

下學年級に於て之を勵行せしむる事。上學年にありては特に名文と稱せらるゝものについて時宜白文を課すること。(例は出師表、赤壁賦等々)(府立第三高女、時下米太郎)

訓點あるものを讀ませておけば澤山である中學程度のものにそんな事で苦勞させる

よりも其の暇に澤山の分量を學習する方が有意義である。生徒をしてなるべく多くの教材に接せしめるやうにせねばならぬ、これも國語科と同じく精神生活に資すべき多大の力あるものと考へるから。(實踐女學校)

否。(慶應普通、依田雄甫)

### 六、復文を課する方法及び程度

備考 右は現在配當せられある課程及び時間によるものと、別に理想的に立案するものといづれにても結構。

- (1) 初學年に於て特に重きをおきて課するを可とす。
  - (2) 程度方法左の如し。
- (甲) 時間——每時約五分間位づつ。
- (乙) 程度——(1) 既習文中の難易中庸を得たる個所。 (2) 右の應用。

(丙) 方法——(問) (1) 朗讀。 (2) 假名交り文にて墨書。

(答) 生徒をして墨書せしむ。(府立一中受持)

簡單なる程度 例 一、聖人無常師 二、聖人常無師の如き場合に常字が何字を限定せるかを英文法によりても示す。(慶應普通、依田雄市)

漢文を漢字混り文に改めさせることは必要であらうが其の他は不必要と認める。

(實踐女學校)

要なし。(青山學院)

…復文は漢文解釋を眞に理解する上よりして必要なる語句語法を課するを可とす。

(市立二中擔任)

## 七、國漢科改廢意見

國語教育の使命は我が國民性並に國民傳統的精神を理解せしめ時代精神、時代思潮

を明かにし、思想生活の基礎を鞏固に作りあげ、自己を培ひ、高め、深め、趣味を堅實に高尚にすること、現代思想知識感情等について嚴正穩健なる批判力の根柢を養ふ等數へれば多くあること、おもふ。そしてこれ等の條件をして効果あらしめるために有力なものは生徒の現生活に縁遠い古典よりも思想感情言語等の比較的接近してゐる現代文であらうと思ふ。中等學校などにあつては古典は現代に生きるために、國民の傳統的精神を理解する必要上授けるといふ位で足りると思ふ、否、現在の時間數ではその邊で満足せねばなるまい。

漢文は支那の學問とはいへ、精神上に影響をうけて來た事の多い我が國にとつてはもはや外國の學問ではなくて、日本の漢文といった感じがある、そしてまた精神陶冶の上にも最も有力な價值あるものであつてこれを廢止するなどといふ事は以ての外の事だと思ふ。國語科も漢文科も十分に修身科の役目を果し得る力を持つてゐるものとおもふ、故に國語漢文を教授するときは修身教授の嚴肅さをすら感ずる。實に國漢は



315

264

ハ物を築き上げるに有力な學科である。これを削減もしくは廢止するなどといふ理由は何處にも見出せない、のみならず寧ろ國語などにあつては猶一層の時間増加をすらも必要と考へるのである。(實踐女學校)

教科書にある漢文は所謂古文にして多數の支那人にも分らず、日本の普通にも用なし、かゝる無用のものを教ふるよりも、「這個東西我們的」などと云ふ支那語を教ふる方遙かに實用的にして利益あり。東京にては教員を得又は養成すること困難ならず。

國文は或時代以降の古文を教ふる必要あり、又漢文と云ふも實は日本にては國文よりもふるく發達せしものならば、古き國文の一種としては之れを教ふる必要あるべし(有益無益を超越して)現代文に至りては各種の文を多く讀ましむる必要あり。

(慶應普通、依田雄東)

漢文は一學科として存立せしむる必要ありと認む。(市立二中擔任)